

導入事例インタビュー

有限会社 津軽興業 様 (千葉県)



従業員 : 23名(技術者4名、オペレーター7名、作業員10名、事務1名、営業1名)
保有重機 : 0.7BH、0.25BH、0.1BH、0.15BH (ZX35 パットブレード) 3DMC.4t コンパインドローラー



iDigは簡単に取扱えますか?—最初のうち、高さだけやればいいならそんなに難しい操作じゃない。スマートフォンいじれば全然操作できるよ。

従業員の反応—若手が高さの確認に3・4人使っている。他の現場でもつけて持って行ってる。乗ってればほとんど覚えていけるから、みんなで覚えていけば全然強みだね。

現場でiDigをどのように活用していますか?—掘削した深さを測るのに、オートレベルを使用したり、勾配ついでと面倒だけど、iDigではそれが不要。最初に勾配設定しておけば楽に掘削できる。

NETISや費用対効果—NETISはA(現在はVR)だから使えるよね。回収は、もう2台分はできてるんじゃないかな。100人削減したら単純計算でx2万円=200万。フルで使ってるからね。

また、水が出てしまうような現場では、手元作業員がウロウロして下がぐじゃぐじゃになってしまう。iDigでは手元いらずで1・2cmの精度で掘れるから、キレイに掘れるよね。

オフセット機能—今は主流で使ってる。法の角切る時に、便利だね。管路掘削やってる人にいいと思うよ。

昔はよく降りて、測ったり、法面整形、勾配上下など、自分でしてると機械の1日の稼働率が相当少なくなってしまう。それに比べたら、今は本当に機械から降りなくなったね。

熟練オペレーターについて—腕があるから必要ないという人も、つけたらもっと出来るようになると思う。まず丁張が簡単で済むし、逆に丁張がなくてもできちゃう利点がある。プラスアルファになるし、絶対いいと思う。

元請け様の反応—1年近く同じ現場で使ってるから、もう言わなくてもiDig用に丁張してくれる。丁張といっても、基本トンボで水糸張るだけ。結構気に入ってるよ、みんな。どこの元請けさんも気に入ってる。

私も下手じゃないから、無くてもできるかもしれないけど、iDigをつけることで更に効率がよくなる。私的には、iDigのメジャー機能がとても重宝してますよ!
(インタビュー動画抜粋)

最も安全なツールとして第2位受賞

2021年9月、ヨーロッパの林業展示会「Forexpo」においてフランス農業社会保障協会より最も安全なツールとして第2位を受賞しました。

iDigは職場の安全性と幸福の代名詞です。ショベルカーのオペレーターはキャビンから降りずに、正確に掘削できます。簡単に安全なiDigで効率よく仕事をして利益を上げ、休息をとり、あなたの人生を充実させてください。



左から2番目:ブリッジン社アルバート社長

【お問合せ・デモのご依頼・ご相談はこちらへ】

BRIDGIN GROUP iDigはフランスBRIDGIN社が開発・製造しているマシンガイダンスシステムです。ヨーロッパ・北米・オーストラリアで普及。アジア・日本各地でも生産性爆上げ中!

日本総代理店

グレートスター ジャパン株式会社

TEL : 045-228-8677 FAX : 045-228-8678
http://www.greatstarjapan.co.jp

スマホがいじれば
操作できる簡単な**2D**
マシンガイダンスがあるって本当?



IDIG.OFFICIAL
iDigインスタ

2D

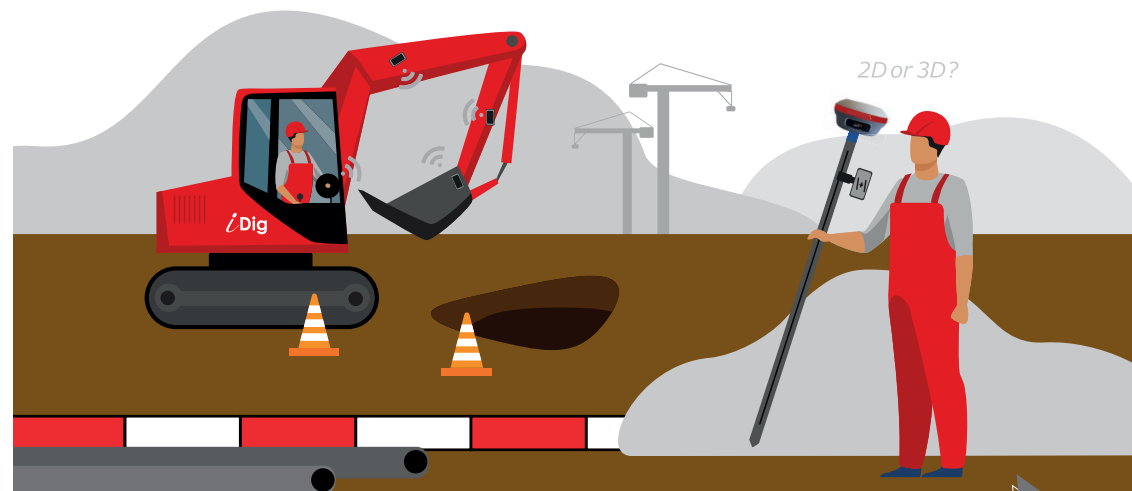


3D



ICT施工には興味があるけれど、

「マシンガイダンスの操作って難しい?」、「ICT施工ってどこから始めればいいの?」
そんなギモンをお持ちのみなさんに、ICT施工のポイントをわかりやすくお伝えします!



生産性爆上げマシンガイダンス
ICT施工 応援ブック!

みなさん、操作が簡単な
2Dがあるなら、
トライしてみる?

あなたの目的にマッチしてるのは、2D or 3D?

「漠然と3Dを入れてみたけど、ほとんど使いこなせてない...」
 これ、残念ながら、よく聞く話です。
 では、ICT施工ってどこから始めたらいいのでしょうか?
 ポイントは「あなたの目的」です!

iDig 2D		or	iDig 3D	
安全・工期・品質・省人化など、シンプルに生産性をアップさせたい!		目的	中長期的にICTに取組み、予算を投資できる! (3Dデータ作成が前提)	
低い	○ 導入コスト	△	高い	
かからない	○ ランニングコスト	△	かかり続ける	
どんな現場でも精度±1cm	◎ 精度	△	現場の環境によって左右される	
NETISのみ加点あり	△ 加点	◎	官公庁からの別途加点あり	
重機を移動後、0位置設定が必要	△ 位置	◎	GNSS受信機により把握可能	
不要	○ 3Dデータ	△	3Dデータ・衛星情報・位置補正情報が必要 ※いずれが欠けても3D運用できない	
不要	○ 技術者	△	3Dデータ作成できる技術者が必要	
簡単な操作	◎ オペレータ	△	3Dデータへの慣れが必要	
<p>2D データ 導入費 ランニングコスト ・2D導入費</p> <p>現場 2D施工で十分な現場がほとんど!</p>		イメージ	<p>3D データ 導入費 ランニングコスト ・3Dデータ ・衛星情報 ・位置補正情報 ・3D導入費 ・データ作成ソフト ・通信費 ・補正情報取得費 ・3Dデータ作成費 ・クラウド使用費</p> <p>※いずれかが欠けても3Dは運用できない</p> <p>お金 低コストで生産性アップが可能!</p>	

ハードルの低い2Dから慣れて、徐々に3Dへ!

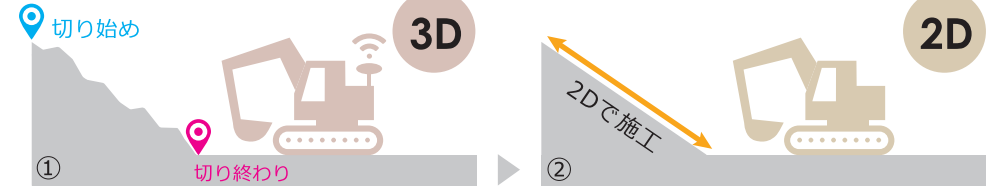
ICT施工=コスト・技術・人材のハードルが高すぎて、なかなか浸透してないのが現状。実際は、2Dの導入だけで十分生産性を上げられる現場がほとんどなのです。まずはシンプルな2Dでコストを抑え、簡単な操作から慣れて、生産性向上を実感しながら、徐々に3Dにも取組んでいくのが、将来的にICT施工を実現しやすい流れです。

ICT施工 = 3D + 2Dの混合使用がポイント!

「ICT施工=3D施工=3D建機のみで施工」と思ってませんか?
 実はコストを抑えて、加点もゲットできるオススメの方法があるんです。
 ポイントは「3D + 2Dの混合使用」!

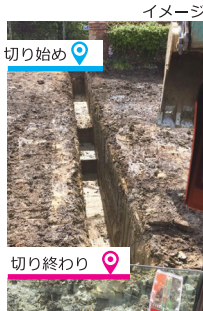
混合使用とは

- ①3Dで切り始め・切り終わりに印付け。
- ②あとはその間を2Dで掘削するだけ!



3D建機が本当に必要なのは一部分

3D施工で必要なのは、3Dデータ上の切り始め切り終わり。3Dで目印をつけたら、あとは2Dでコスト削減。混合使用は2Dが一般的なヨーロッパでもスタンダードなスタイルです。2Dなら高精度な掘削はもちろん、オフセットブーム・チルトローデータ等にも対応しているので、状況に応じた作業が可能です!



混合使用 - 事例

ICT導入協議会もオススメ!

国土交通省ウェブサイト
 ICT導入協議会第9回参考資料-1
 ICT活用における課題と対応事例



事例D抜粋

現場概要	路体・路床盛土: 1,500m ³ 法面整形工: 1,200m ² 排水構造物工: 270m	【効果】 ・生産性向上より、施工労務の削減効果が大きいと感じた ・簡易型2Dマシンガイダンスバックホウを導入することで、ICT建機を早期返却 ・面的出来形対象範囲を事前に協議し、非効率となる可能性のある管理手法を除外した。
施工数量		
主な工種	道路改良	

場面	問題及び課題	対策
① 現場環境 狭隘部	・狭隘な現場のため、ブルドーザでの施工が難しいことが懸念された	・ICTバックホウのみで施工を実施 ※オフセット機能を活用
② 工種条件 排水構造物工	・構造物工の施工による建機の遊休時間が発生し、建機の拘束期間が長くなり、コスト増となること懸念される。 ※本現場は排水構造物施工有り	・3Dの目印をもとに2Dで施工することで3Dの早期返却が可能となった。